

自己点検評価書

(対象年度：平成23年度～25年度)

Self-assessment report

FY2011-2013

H26.1月現在

平成26年3月 March, 2014,

福井大学語学センター

Language Center, University of Fukui

目 次

I	語学センターの現状及び特徴	2
II	基準ごとの自己評価	
	基準 1 語学センターの設置目的	4
	基準 2 語学のセンター組織（実施体制）	8
	基準 3 教員及び支援者	10
	基準 4 （省略）	
	基準 5 活動状況	13
	基準 6 設置目的の成果	19
	基準 7 学生・研究者等の支援等	23
	基準 8 施設・設備	27
	基準 9 財務	29
	基準 10 管理運営	31
IV	根拠資料	
	自己点検評価書根拠資料（別添）	

I 語学センターの現状及び特徴

1 現 状

- (1) 部局名 福井大学語学センター
- (2) 所在地 福井県福井市文京3丁目9番1号
- (3) 部局の構成 (平成25年11月1日現在)

運営委員会 (平成25年11月1日現在)

役職	氏名	職名	所属
センター長(委員長)	アルバート・レーナー	教授	語学センター
委員	大下 邦幸	教授	教育地域科学部
〃	林 寛之	教授	医学部
〃	明石 行生	教授	工学研究科
〃	横井 正信	教授	共通教育センター(教育地域科学部)
〃	藤原 哲也	教授	医学英語教育推進会議(医学部)
〃	小幡 浩司	教授	国際交流センター
〃	タギ・キング・クリスティ	教授	語学センター
〃	中根 貞幸	特命教授	語学センター
〃	キング・ケリー	特命准教授	語学センター

【参考：過去の運営委員会】

(平成24年度)

役職	氏名	職名	所属
センター長(委員長)	アルバート・レーナー	教授	語学センター
委員	木原 泰紀	教授	教育地域科学部
〃	舘 清隆	教授	教育地域科学部
〃	藤原 哲也	教授	医学部
〃	林 寛之	教授	医学部
〃	林 明久	教授	工学研究科
〃	明石 行生	准教授	工学研究科
〃	中島 清	教授	留学生センター
〃	中根 貞幸	特命教授	語学センター

(平成23年度)

役職	氏名	職名	所属
センター長(委員長)	中根 貞幸	教授	語学センター(教育地域科学部)
委員	舘 清隆	教授	教育地域科学部
〃	安田 年博	教授	医学部
〃	三上 俊介	教授	医学部
〃	林 明久	教授	工学研究科
〃	明石 行生	准教授	工学研究科
〃	中島 清	教授	留学生センター

特徴

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準1 語学センターの設置目的 Purpose

(1) 基準ごとの分析

1-1 設置目的が明確に定められており、その内容が本学の目的に適合するものであること。

The purpose of the LC is clearly specified and suited to UF purposes.

【基準に係る状況】

語学センターは、学部、大学院及び関連する学内共同教育研究施設等と連携協力し、語学教育の充実を図ることにより、本学の教育目標の達成に寄与することを目的としている組織であり、福井大学語学センター規程において設置目的が明確に定められている。

○理念

福井大学は、学術と文化の拠点として、高い倫理観のもと、人々が健やかに暮らせるための科学と技術に関する世界的水準での教育・研究を推進し、地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成と、独創的かつ地域の特色に鑑みた教育科学研究、先端科学技術研究及び医学研究を行い、専門医療を実践することを目的とする。

○学則

(学内共同教育研究施設等)

第8条 本学に、次の学内共同教育研究施設を置く。

(略)

2 学長は、前項に掲げるもののほか、教育研究等に必要な施設等を置くことができる。

○本学第二期中期目標 抜粋

(前文) 大学の基本的な目標

本学の使命は「学術と文化の拠点として、高い倫理観のもと、人々が健やかに暮らせるための科学と技術に関する世界的水準での教育・研究を推進し、地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成と、独創的かつ地域の特色に鑑みた教育科学研究、先端科学技術研究及び医学研究を行い、専門医療を実践すること」にあり、このために大学の基本的な目標を次のように定める。

1. 福井大学は、21世紀のグローバル社会において、高度専門職業人として活躍できる優れた人材を育成します。
2. 福井大学は、教員一人ひとりの創造的な研究を尊重するとともに、本学の地域性等に立脚した研究拠点を育成し、特色ある研究で世界的に優れた成果

を発信します。

3. 福井大学は、優れた教育、研究、医療を通して地域発展をリードし、豊かな社会づくりに貢献します。
4. 福井大学は、ここで学び、働く人々が誇りと希望を持って積極的に活動するために必要な組織・体制を構築し、社会から頼りにされる元気な大学になります。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

② 基本目標「21世紀のグローバル社会において高度専門職業人として活躍できる人材の育成」を目指して、国際的にも通用する質の高い教育を実施する。

(2) 教育の実施体制等に関する目標

① 質の高い教育を実現するため、教育内容・方法や成果を点検・評価するシステムを構築し、不断に改善を行う教育実施体制を整備する。

(3) 学生への支援に関する目標

① 社会を主体的・能動的に担っていく人間の形成を目指して、学生の成長を積極的に促す学習支援、生活支援、就職支援を行う大学づくりを進める。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

① 本学の教育研究医療及び社会貢献上の使命を果たすため、学長をトップとするガバナンスの在り方、学長のリーダーシップを支える体制や裁量的予算・人件費、学外者の意見の効果的な活用、教育研究組織の在り方などについて継続的に点検・改善を行う。

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

① 教育研究の活性化や大学運営の継続的な改善に向け、評価を積極的に活用する。

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

① 国民に支えられて成立している国立大学法人であることを踏まえ、教育研究等成果の社会への還元を積極的に推進する。

【分析結果とその根拠理由】

語学センターの設置目的は、前述のとおり語学センター規定に定められており、第2条に「センターは、学部、大学院及び関連する各学内共同教育研究施設等と連携協力し、語学教育の充実を図ることにより、本学の教育目標の達成に寄与することを目的とする。」と規定されている。

本学中期目標を達成するために語学センターは、福井大学語学センター運営委員会要項に則り、運営委員会を設置して、目標達成のための運営方針等について審議している。

設置初年度においては、教育改革の核となるセンター長人事を国際公募により実施し、2年目には新センター長の下で教育改革のための地盤づくりを総合的に推し進め、3年目には工学部1年次生において新カリキュラムによる英語教育を実施する等、着実に目的達成に向けた取組を推進している。

【資料 福井大学語学センター規程 資料編P. 1】

【資料 福井大学語学センター運営委員会要項 資料編P. 3】

【資料 福井大学組織図 資料編P. 5】

1-2 設置目的が、本学構成員に周知されているとともに、地域・社会に公表されていること。

The purpose of the Center is made public to all UF members and also to the community.

【基準に係る状況】

語学センターでは、目標及び活動状況等を語学センターのホームページにおいて学内外に広く公表している。また、学生スタッフによるイベント活動等については、ポスター掲示、メーリング・リスト、及びSNS (Facebook) により周知を図っている。なお、運営委員会委員についても各キャンパスより選出し、学部教員へ周知を図る仕組みを設けている。

【資料 語学センターホームページ 資料編P. 7】

【分析結果とその根拠理由】

語学センターの設置目的は、教育研究評議会で承認された語学センター構想に基づいて規定が定められている。また、ホームページ等で学内的にも社会的にも十分周知されている。さらに年に数回実施されるイベント等を通じて、語学センターの活動状況について周知を行っている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

英語教育プログラムの構築と実践で優れた実績を有するセンター長のリーダーシップによって、本学の特性を活かした英語教育が実践できる体制固めを行ってきた。ESL/EFLの専門家を教員として迎え、各学部選出の運営委員と共に、いかに実効性のある英語教育に取り組むか常に検証している。また、グローバル人材育成推進事業で採用されたインストラクターもセンターに迎え入れ、該当事業の推進にも深く関与し、大きな貢献が行えるよう協力し合っている。

【改善を要する点】

優れた英語教育を実施する基盤はできつつあるが、さらに強固なものにして、全学部・大学院規模での英語教育の充実に寄与できるようにする必要がある。

(3) 基準1の自己評価の概要

十分達成されている。

設置目的が明確に定められており、本学の目的に十分適合している。その内容は本学構成員に十分周知され、社会に公表されている。本学の目的に適合したセンターである。

基準2 語学センターの組織（実施体制） Organization

(1) 基準ごとの分析

2-1 組織構成が、設置目的に照らして適切なものであること。

The administrative and faculty organization should be appropriate to the purpose of the Center.

【基準に係る状況】

語学センター規程第4条に基づき、センター長、副センター長、インストラクター、その他必要な職員で構成されている。

【分析結果とその根拠理由】

語学センターでは、その設置目的である「センターは、学部、大学院及び関連する学内共同教育研究施設等と連携協力し、語学教育の充実を図ることにより、本学の教育目標の達成に寄与することを目的とする。」ことを達成するために必要な組織構成を整えている。

2-2 設置目的を達成する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。

There should be an appropriate management system to achieve the purpose of the Center and it is functioning as intended.

【基準に係る状況】

語学センターの管理運営については、語学センター運営委員会が担っており、本センターの各種活動を実施している。（委員構成は冒頭資料参照）

事務支援体制については、教務課及び必要に応じて国際課が支援を行うとともに、松岡キャンパス学務室の協力のもと活動を行っている。

【分析結果とその根拠理由】

語学センターは、設置後3年を経過した。その間、運営委員会を毎年定期的で開催して、本センターの設置目的を達成するため、活発な活動を行っている。また、運営委員会に、理事がオブザーバーとして陪席することで、大学経営陣と語学センターの運営について意思疎通が図れている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

目的が明確に設定され、その実現に対応した組織となっている。また、運営委員会では、中長期的な課題について審議し、英語教育の充実を図っている。

(3) 基準2の自己評価の概要

十分達成されている。

組織構成が設置目的に即した効率的な体制であり、運営委員会も十分に開催され、期待に沿った活動が十分に行われている。

基準3 教員及び支援者 Faculty members and staff, etc.

(1) 基準ごとの分析

3-1 設置目的を遂行するために必要な教員が適切に配置されていること。

A sufficient number of faculty members should be hired to achieve the stated purpose.

【基準に係る状況】

福井大学語学センター規程第4条において、センター長、副センター長、インストラクター、その他必要な職員を置くこととなっている。

【分析結果とその根拠理由】

平成23年度には、教育地域科学部教授がセンター長を兼任し、特に新センター長の採用人事を主として語学センターの実質的な活動に向けた準備業務を担当した。平成24年度からは、前年度国際公募により採用したセンター長の下で業務を実施し、同年3名のインストラクター（全学グローバル人材育成推進委員会所属）を雇用した。また、前センター長を引き続き特命教授として雇用し、運営支援を行った。平成25年度11月現在、センター長及び前センター長に加え、センター所属インストラクター6名、その他インストラクター（全学グローバル人材育成推進委員会所属）5名が雇用されている。また、平成26年度4月より、インストラクター（全学グローバル人材育成推進委員会所属）3名の採用が内定している。

インストラクターは、英語教育の専門性だけでなく、日本語能力も踏まえて採用されている。基礎レベルのクラス担当には、日本人インストラクターまたは日本語が堪能な外国人インストラクターを配置する等、専門性と能力が活かされている。

以上のことにより、語学センターを運営するための体制は、設置から毎年強化されてきており、十分に整っている。

【資料 教員名簿（平成26年1月時点） 資料編P.9】

3-2 教員の採用及び昇格に当たって、適切な基準が定められ、それに従い適切な運用がなされていること。

A set of standards for employment and promotion of faculty members is appropriately provided and is applied as stated there.

【基準に係る状況】

センター長及びインストラクター採用に当たっては、「語学センター長選考委員会」および「語学センターインストラクター審査委員会」を設置し、公募により選考を行っている。選考結果は、「教育研究に係る政策推進施設の教員人事に関する申し合わせ」（平成22年9月29日人事会議）に基づき、人事会議に採用方針及び公募条件を付して提案し、同会議の最終審議を経て採用教員を決定している。

【資料：福井大学語学センター長公募要領 資料編P.11】

【資料：福井大学語学センター常勤インストラクターの公募案内 資料編P15】

【資料：教育研究に係る政策推進施設の教員人事に関する申合せ 資料編P17】

【分析結果とその根拠理由】

語学センター規程第4条において、センター長、副センター長、インストラクター、及びその他必要な職員を置くこととしている。さらに、教員採用にあたっては、語学センターに「語学センター長選考委員会」「語学センターインストラクター審査委員会」、グローバル人材育成推進委員会に「全学グローバル人材育成推進委員会審査委員会」を設置し、公募により教員選考を行っており、学内の教員採用に係る手続きに則り運用している。

3-3 設置目的を達成するための基礎となる研究活動が行われていること。

Research activities as a basis for achieving the purpose should be done.

【基準に係る状況】

語学センター教員は自発的に英語教育に関する研究を行い、研鑽を重ねている。国内の英語教育関係の学会に多くのインストラクターが参加したほか、海外における TESOL 学会でもセンター長が”Englishing: Technology as an Add-on with Japanese University Students”（平成25年11月 TESOL Italy）と題して発表を行う等、積極的に研究発表を行っている。さらに、必要に応じて、センター会議を開き、教育上の問題について意見交換し、適宜対応をしている。また、英語教育、英語事情に関する論文や記事を読み、常にセンター内でFDを行っている。さらに、工学部の教員と協働して、ESPを取り入れた新たな英語教育の施行を計画し、そのための研究も含めた準備を進めている。

【分析結果とその根拠理由】

上記のように、学内外で教授法の研究を行い、常に英語教育を改善しようとする努力が行われており、一部、科研費の申請も行われている。

3-4 設置目的を遂行するために必要な支援者の配置や補助者の活用が適切に行われていること。

To achieve the purpose, other necessary members should be hired for the center and an effective use of these supporting members is maintained.

【基準に係る状況】

語学センター運営委員会要項において、運営委員会委員として、センター長、副センター長に加えて、学長が指名する者、その他学長が必要と認めた者が挙げられている。また、語学センター規程第7条において、センターの庶務は、学務部教務課において処理し、必要に応じて国際課の支援を行うこととなっている。

【分析結果とその根拠理由】

語学センター運営委員会には、センター選出の委員の他、各学部選出の委員の参加、および理事2名の陪席により、全学的な視野でセンターの運営について審議している。また、事務支援体制として、学務部教務課教務企画係所属の事務職員（語学センター主担当常勤1名、非常勤2名）が担当として配置されている。上述のことから、必要な支援者の配置や補助者の活用は適切に行われている。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

平成24年度より、専任教員が適宜雇用され、平成25年度からの英語教育新カリキュラム実施に貢献している。また、平成24年度以降も、前センター長を特命教員として継続雇用し、運営支援を実施していることにより、新センター長の下での運営がスムーズに行われている。

【改善を要する点】

語学センターは全学のセンターとして、全学の英語教育に関わることとなる。そのために、それに相応しい学内の教育審議体制について更なる検討が必要である。

（3）基準3の自己評価の概要

十分に達成されている。

基準5 活動状況 Activity

(1) 基準ごとの分析

5-1 設置目的に沿った活動が、充分に行われていること。

Sufficient activities in line with the purpose should be done.

【基準に係る状況】

語学センターでは、設置目的に沿い、本学の語学教育の充実のため、次の活動を実施している。

1. 共通教育（教養教育）の一部（基礎教育）として実施される必修の英語カリキュラムの改革と実施
2. 学生の一般的な英語運用能力の上達を図るため、4技能を統合したコミュニケーションクラス（シラバスにオンライン学習を組み込み、それを活用することを含む）の担当
3. 福井大学のグローバル人材育成推進事業で示されている TOEIC の目標スコア達成のためのサポート
4. 福井大学の3学部・3大学院研究科における、基礎的な英語教育及び各学部・研究科に合わせた ESP（English for Specific Purposes）教育開発のサポート
5. 共通教育（教養教育）担当の教員が行っている英語授業のサポート及び強化支援
6. 地域の企業・住民に対する英語カリキュラムの開発及び提供
7. 留学生と日本人学生が会話、レクリエーション、アカデミックな目的のために集い合うことのできる「グローバル・ハブ」の運営
8. 学生が自主的に学習できる言語開発センター（LDC）の運営
9. 英語能力が留学に必要な水準を満たしている学生に対する留学機会の提供
10. 近隣の教育機関における学生の英語能力向上への協力
(福井県教育委員会と協力して、ALT を対象とした英語教授法ワークショップを実施など)

なお、このうち9の留学機会の提供については、平成25年度後期より国際交流センターに移管している。

【分析結果とその根拠理由】

1. 共通教育（教養教育）の一部として実施される必修の英語カリキュラムの改革と実施

平成24年度には、共通教育「英語」について、①従来の週1回から週2回開講へとクラス数の増加、②1クラスあたりの学生数を40名から24名前後へ少人数化、③TOEIC及びGSL（語彙レベル）テストを用いて4レベルの習熟度別クラス分け等を柱とした英語新カリキュラムを実施するため、工学研究科教員と協力しながら時間割の設定や、インストラクターの雇用を進める等の準備を行い、平成

25年度入学工学部1年生から、新カリキュラムの下で英語教育を実施した。また、教育地域科学部については平成26年度からの実施に向けて、医学部でも将来的な実施に向けて検討を進めているところであり、英語カリキュラムの改革は着実に進んでいる。

2. 学生の一般的なコミュニケーション能力の上達を図るため、4技能を統合した基本的なコミュニケーションクラス（シラバスにオンライン学習を組み込み、それを活用することを含む）の担当

新カリキュラムを実施している平成25年度入学工学部1年生については、TEFL/TESL等の修士号以上を持った語学センター教員が授業を担当しており、新カリキュラムのシラバスに則り、4技能を統合した基本的なコミュニケーションクラスを実現している。また、English Central, ALC Net Academy, Rosetta Stoneといったオンライン学習プログラムを全クラスにおいて活用し、学生には授業外で週1時間の学習をするよう義務付け、その進捗状況を担当教員が逐次常時チェックすることで、学生の学習時間の確保を行う等、オンライン学習システムを最大限活用している。

3. 福井大学のグローバル人材育成推進事業で示されている TOEIC の目標スコア達成のためのサポート

福井大学のグローバル人材育成推進事業においては、平成26年度末（遅くとも27年度末）の工学部1年次末の到達目標TOEIC500点、平成28年度には全学部2年次末の到達目標600点という目標を立てている。この目標を達成するため、平成25年度入学工学部1年生対象の新カリキュラムでは、コミュニケーション力向上に併せてTOEIC対策も盛り込んでおり、4月のプレースメント時の平均345点から、1月には平均が54点上昇する等、高い成果を挙げている。

加えてグローバル人材育成推進事業では、平成28年度末には、卒業時に習得すべき外国語力スタンダードをTOEIC750点として、工学部卒業生のうち約15%がこのスコアを獲得するという目標値を立てている。この目標を達成するため、新カリキュラムの共通教育「英語」を受講しない平成25年度2年生から4年生についても受講可能なTOEIC対策を主とした集中講義を、平成25年度夏期に実施した。さらに、具体の750点対策として、各学科から推薦及び自薦にて、凡そTOEIC550点以上の実力のある学生を集め、平成25年度後期にTOEIC対策講座（単位付与なし）を実施している。以上のことから、TOEIC目標値達成のためのサポートは充分に実施されている。

【資料 平成24年度グローバル人材育成推進事業構想調書 資料編P.19】

【資料 TOEIC結果 資料編P.63】

4. 福井大学の3学部・3大学院研究科における、基礎的な英語教育及び各学部・研究科に合わせたESP (English for Specific Purposes) 教育開発のサポート

平成24年度においては、工学部および工学研究科における「技術英語」「科学英語コミュニケーション」「科学英語表現」を、TEFL/TESLの修士号を持った教員が担当することで、より実践的な英語専門教育を開始している。

新カリキュラムでは、ESPは2年次からの実施となっており、平成25年度においては、平成26年度2年次生からの開始に向けて、工学研究科教員の協力を一部得ながら、教材の選定等準備を行っている。とりわけ、機械工学科および建築建設工学科のTOEIC上位24名(各学科12名)による、実際の研究室を用いて工作等を行う等より実践的な場面を想定して英語を学習するProject-Based Learning 試行クラスを実施する予定であり、先進的な取組のための準備を進めている。

5. 共通教育(教養教育)担当の教員が行っている英語授業のサポート及び強化支援

平成25年度においては、工学部1年生のみが新カリキュラム対象であるため、全ての授業を語学センター教員(含グローバル人材育成推進委員会付き教員)が実施しているところである。平成26年度からは、工学部2年生、新1年生に加え、新カリキュラムを教育地域科学部及び松岡キャンパスにおいても実施予定であるため、他の英語教員(非常勤講師を含む)も新カリキュラムの授業を担当する予定であり、その実施に向けて、平成25年度より、逐次説明会の実施および個別相談に対応し、支援を行っている。

6. 地域の企業・住民の方々に対する英語カリキュラムの開発及び提供

語学センターは、設立構想の時点から地域企業への貢献を目的の一つとしており、平成24年度には、日華化学株式会社の要請を受け、同社の社員を対象に、3ヶ月の英語研修を実施した。3ヶ月後には、TOEICの点数が約90点上昇する等、高い成果を挙げ、平成25年度も引き続き研修を実施した。

また、平成25年度に開設した後述の言語開発センター(LDC)を地域の住民にも開放し、自主的な英語学習の機会を提供している。

7. 留学生と日本人学生が会話、レクリエーション、アカデミックな目的のために集い合うことのできる「グローバル・ハブ」の運営

グローバル・ハブは平成24年10月に、日本人学生と留学生が集い合うための国際交流スペースとして設置された。工学研究科建築建設工学専攻の教員及び学生

の協力の下で設計され、他の施設にはあまり見られない、暖かみのある雰囲気での交流を促進するデザインとなっている。開設以来、普段の交流スペースとして自由に学生に開放しているほか、このスペースを用いて、スチューデント・アシスタント（以下S A）らによる国際交流イベントが定期的に行われており、毎回多数の日本人学生、留学生らが参加している。

また、平成24年度から、1～2ヶ月に1回、学内外のゲストスピーカーを迎えて、英語を用いてプレゼンテーションを行う「ブラウンバッグセミナー」を開催しており、語学関係以外においても、アカデミックな内容について英語で触れる機会を提供している。

以上のことから、グローバル・ハブは開設以来、その目的に則り、最大限に活用されている。

【資料 語学センターイベント一覧 資料編P. 67】

【資料 ブラウンバッグセミナー開催状況 資料編P. 69】

8. 学生が自主的に学習できる言語開発センター（LDC）の運営

言語開発センター（LDC）は平成25年4月に、学生が自立して語学を学習するスペースとして開設された。2,500冊以上の多読用教材（Graded Readers）やTOEIC等各種語学検定試験用教材等を備えたリーディング・ラウンジ、1,000本以上のDVDを視聴できるDVDステーション、各部屋に1台ずつパソコンを備えたE-Learning用の個人語学演習室（24室）、6人までのグループ学習が可能な多目的演習室（4室）が備わっている。新カリキュラムを適用している平成25年度工学部1年生に対しては、授業外学習の一環としてオンライン学習システムを用いた学習を課した上で、教員が学習の進捗をモニターするシステムを用いており、センターを最大限活用するための取組を行っている。実際、ピーク時には満席で時間制限を設ける等、有効に機能している。

9. 英語能力が留学に必要な水準を満たしている学生に対する留学機会の提供

語学センターでは、平成24年9月から短期海外英語研修を春季と夏季に実施してきた。研修先としては、カナダのRoyal Roads大学、アメリカのPortland州立大学、カナダのToronto大学、オーストラリアMonash大学、ニュージーランドAuckland大学と選択の幅を広げ、平成24年度には総計53名、平成25年度秋季には総計26名が参加した。短期研修を開始する前の平成23年度から比較すると、福井大学全体の海外派遣学生総計が平成24年度には1.8倍に増加しており、語学センター主催の短期海外研修は学生の海外体験の機会提供、および英語学習を促す雰囲気の醸成に大いに役立っていると言える。なお、これらの研修事業は平成25年

7月10月に国際交流センターに引き継がれたため、平成25年度春季プログラムからは語学センターの活動からは外れているが、引き続き周知活動等に協力し、より多くの学生に機会を提供するよう努めている。

【資料 語学センター海外英語研修プログラム募集要項 資料編P.71】

10. 近隣の教育機関における学生の英語能力向上への協力（福井県教育委員会への協力など）

平成24年度には、福井県教育委員会からの依頼により、ALT研修の講師として、教育地域科学部英語教員1名とともにセンター長およびインストラクター1名が参加し、ティーム・ティーチングにおけるALTの具体的な指導の在り方について講義・演習を行った。また、平成25年度にはSAが中心となって企画した、英語および国際交流に興味のある高校生を対象としたイベント「Knock on the door to the World」を実施し、高校生に対して英語学習および留学への動機付けとなる取組も進めている。また、同年8月には福井大学が文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択された。この事業の一環として、語学センターを中心とした小中高等学校英語担当教師の英語教育力強化が挙げられており、教育委員会と協力しながら、更なる取組が進められているところである。

5-2 活動状況の結果が、学内及び地域・社会に対して公表されていること。

The results of the activities should be made public to UF and the community.

【基準に係る状況】

語学センターでは、活動の過程及び結果を学内外に公表するために、センターのホームページに各種情報を掲載している。また、学生スタッフによるイベント活動等については、ポスター掲示、メーリング・リスト、及びSNS（Facebook）により周知を図っている。なお、運営委員会委員についても各キャンパスより選出し、学部教員へ周知を図る仕組みを設けている。

また、平成25年度には、グローバル人材育成推進事業の取組（実践的英語教育の取組）について、Go Global Japan EXPO（平成25年12月15日、早稲田大学、東京）にてセンター長が発表を行った。さらに、国外においても、イタリアの学会（平成25年11月、ナポリ東洋大学）において”English in Japan: Global 30+ and Globalization”と題して発表を行い、海外の研究者からも多くの問合せを受ける等、成果を積極的に公表している。

【資料 Go Global Japan EXPO 発表資料 資料編P.75】

【分析結果とその根拠理由】

語学センターが実施した活動については、主にホームページやSNSを通じて周知されており、学内外に広く公表されている。また、学外の各種学会、シンポジウム等の場でも積極的に成果を発信している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

平成25年度の工学部1年生からの新カリキュラム実施に象徴されるように、設置目的である福井大学の語学教育の充実は着実に進んでおり、加えてESP試行授業の準備等、先進的な試みにも追加的に取り組んでいる。また、TOEICの平均スコアが54点上昇する等、必要に応じて数値的に示すことのできる成果を挙げている。地域貢献についても、地域企業に対する研修および教育委員会との協力等、顕著に取り組んでいる。施設については、平成25年度には、グローバル・ハブおよび言語開発センター(LDC)が十分に機能している。また、松岡キャンパスでも、小規模のLDC設置準備が進行中である。

【改善を要する点】

更なる情報発信のためには、ホームページ内コンテンツの充実等、一層改善を図る必要がある。

(3) 基準5の自己評価の概要

設置目的に沿った活動が充分に行われ、成果が学内および地域・社会に公表されている。

基準6 設置目的の成果

(1) 基準ごとの分析

6-1 設置目的の成果や効果が上がっていること。

Good results and effects should be prominent enough to show the achievements of the purpose.

【基準に係る状況】

設置目的として、前述のとおり「センターは、学部、大学院及び関連する各学内共同教育研究施設等と連携協力し、語学教育の充実を図ることにより、本学の教育目標の達成に寄与することを目的とする。」としている。

詳細の活動状況は基準5で述べられたとおりであるが、とくに顕著な成果としては以下の3点で示すことができる。

- ① 英語教育改革の推進
- ② 施設・環境の整備
- ③ 地域貢献

具体の詳細は以下に述べる。

【分析結果とその根拠理由】

① 英語教育改革の推進

福井大学の英語教育改革は共通教育改革の一環として行われてきた。改革の方向性は、「これからの共通教育のあり方について-共通教育検討委員会中間報告-」（平成24年3月）に次の5点にまとめて述べられている。－ (1) 授業時間数増, (2) 教室の確保と時間割, (3) 習熟度別クラス編成の導入, (4) クラスサイズと教室の形態, (5) CALL (E-learning) システム

平成24年4月には前国際教養大学教授が専任の語学センター長として着任し、上記検討課題を審議するために、共通教育検討委員会の下に、センター長、前センター長（特命教授）および各学部選出委員による英語教育検討専門委員会が設けられた。同年6月に第1回委員会が開催され、その後、月1回のペースで審議を続けた。

本学の英語教育の目的を「高校までの英語学習の成果をさらに発展させ、英語使用の機会を多く提供する中で、英語コミュニケーション能力を高める。また同時に、グローバルに英語を使うことができるように意識を高揚させる。」と定めて、その達成のためにどのような教育体制を構築すべきかを議論し、同年12月に英語教育改革案をとりまとめた。その詳細は以下の通りである。

- ・ コミュニカティブな授業運営
- ・ 授業時間数の増加（週2コマ化）
- ・ 習熟度別クラスのためのプレースメントテストの実施：当面はTOEICを用いるが、

語彙レベルテストも併用し、区分は4段階とする。

- ・クラスサイズの縮小：各クラス 28 名程度を想定
- ・CALL (E-learning) システムの活用：既存の NetAcademy 2 に加え EnglishCentral や Rosetta Stone を導入。

平成 24 年 9 月のグローバル人材育成推進事業の採択を受け、同年 1 2 月に全学グローバル人材推進委員会語学教育部会と共通教育委員会の合同 WG（英語では Joint Task Force, 略称 JTF）が設置され、翌年 4 月工学部 1 年生からの新カリキュラム実施に向けて検討を行った。審議課題として、工学部との時間割調整、英語教育改革に関する非常勤講師への周知、単位数、科目名称変更など履修の手引き、規程の改正に係る事項、レベル分けとテキストの選定、プレースメントの方法について検討し、実施準備を終えた。また平成 25 年 4 月には、語学センターのインストラクター 6 名に加え、さらに G30+で採用した 3 名も加わることで、平成 25 年 4 月入学工学部 1 年生から新カリキュラムの英語授業の実施を可能とした。

また、平成 26 年度からの学年進行に伴い、英語の授業が大幅に増加する。それに備えるために、大幅な時間割の変更が必要となるので、平成 25 年 8 月には英語教育週 2 回開講に伴う時間割調整 WG と英語教育週 2 回開講に伴う教育内容等検討 WG が立ち上げられた。まず、前者の WG と両学部との間で、英語の開講時間帯を定め、調整をした後、それを基にして、英語以外の外国語担当者（教育地域科学部所属）と両学部で時間帯の調整を行い、10 月に新たな時間割枠が共通教育センターで承認され、続いて両学部でも報告了承された。これによって、平成 26 年 4 月から教育地域科学部 1 年生にも新カリキュラム適用への道が開かれた。後者の WG では、教育内容・方法、使用テキストなどについて審議した。両 WG での審議を踏まえて、英語新カリキュラムの教授内容と教授方法などについて、同年 11 月に非常勤講師を招いて説明会を開催し、教育地域科学部所属の英語教員や語学センターの教員も多数が参加した。

以上のことから、語学センターを中心とした英語教育改革が着実に推進されていると言える。

②施設・環境の整備

平成 24 年 10 月に、留学生と日本人学生が会話、レクリエーション、アカデミックな目的のために集い合うことのできる「グローバル・ハブ」が設置された。工学研究科建築建設工学専攻の教員及び学生の協力の下で設計され、他の施設には類をみない、暖かみのある雰囲気交流を促進するデザインとなっている。そのため、普段の交流スペースとして自由に学生に開放する以外にも、このスペースを用いたスチューデント・アシスタント（以下 SA）らによる国際交流イベントや、国際課等による留学プログラム説明会等にも活発に利用されており、開設以来、国際交流スペースとして最大限に活用されている。

また、平成25年4月には、言語開発センター（LDC）が、学生が自立的に語学を学習するスペースとして開設された。2,500冊以上の多読用教材（Graded Readers）やTOEIC等各種語学検定試験用教材等を備えたリーディング・ラウンジ、1,000本以上のDVDを視聴できるDVDステーション、各部屋に1台ずつパソコンを備えたE-Learning用の個人語学演習室（24室）、6人までのグループ学習が可能な多目的演習室（4室）が備わっている。新カリキュラムを適用している平成25年度工学部1年生に対しては、授業外学習の一環としてオンライン学習システムを用いた学習を課した上で、教員が学習の進捗をモニターするシステムを用いており、センターを最大限活用するための取組を行っており、実際、ピーク時には満席で時間制限を設ける等、学生が意欲的に学習していることがわかり、非常に有効に機能している。また、同年8月に行われたオープンキャンパスでも多数の高校生および保護者が見学に来て、国際系の大学進学を志望する県外の受験生と保護者から「福井大学にこのような充実した施設があるとは知らなかった。志望校の一つとして考えたい。」という声が聞かれる等、高い評判を得ている。

③地域貢献

語学センターは、設立構想の時点から地域企業への貢献を目的の一つとしており、平成24年度には、日華化学株式会社の要請を受け、同社の社員を対象に、3ヵ月の英語研修を実施した。3ヵ月後には、TOEICの点数が約90点上昇する等、高い成果を挙げ、平成25年度にも引き続き研修を実施した。この取組以降、他の企業からも多数視察に訪れる等、注目を集めている。

また、センター施設であるLDCを一般の利用者にも開放している（利用者登録制）。学期中は平日夜8時まで開いているため、仕事後に毎日のように訪れる一般利用者もおり、地域に語学学習の場を提供する点でも貢献している。

他にも、平成24年度には、福井県教育委員会からの依頼により、ALT研修の講師として、教育地域科学部英語教員とともにセンター長およびインストラクター1名が参加し、チーム・ティーチングにおけるALTの具体的な指導の在り方について講義・演習を行った。また、平成25年11月には、SAが中心となって企画した、英語および国際交流に興味のある高校生を対象としたイベント「Knock on the door to the World」を実施した。このイベントに参加した高校生からは、「大学生の意見が具体的に将来について考えさせられた」、「将来、英語の教員になりたいという夢が鮮明になった」など前向きな意見が聞かれた。

以上のように、語学センターは様々な点から地域の企業・住民等に語学学習の機会を提供しているといえる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ① 英語教育改革の推進
- ② 施設・環境の整備
- ③ 地域貢献

詳細は前述のとおり。

【改善を要する点】

文京キャンパスにおける英語教育改革は着実に推進されているが、今後は、松岡キャンパスにおける取組の促進についても、関係部局と協力しながら、進めていくための一層の努力を行う必要がある。

(3) 基準6の自己評価の概要

十分達成している。

基準7 学生・研究者等の支援等 Support for students

(1) 基準ごとの分析

- 7-1 設置目的に沿った履修指導・研究指導が適切に行われていること。また、学生・研究者等の自主的学習等を支援する環境が整備され、かつ相談・助言体制等の支援が適切に行われていること。

An appropriate guidance on class registration and study is made. An environment is developed for students to support their self-study. Also, a necessary advising system is operated adequately.

【基準に係る状況】

①履修指導

語学センターでは、新センター長らが着任に伴い、平成24年度より共通教育の授業（「英語」および「英語コミュニケーション系」）を担当した。授業内容の詳細は全てシラバスに記されて公開されており、適切な履修指導がなされている。平成25年度においては、工学部1年生を対象に新カリキュラムが適応され、語学センター教員が新カリキュラムにおける「英語」の全授業を担当した。習熟度は、4月および7月実施のプレースメントテストによって測られ、教員により適切なクラスに振り分けられた上で学生に通知されており、レベルとは無関係に機械的に振り分けられて履修することがない体制となっている。また、週2回の担任制で、English Central等のE-learningの授業外学習をモニターする仕組みを通じて、前年度までの通常の「英語」授業と比較しても、担当の教員と学生間のコミュニケーションが活発となっており、相談・助言を行うのに学生にとっても教員にとっても好ましい体制となっている。また、新カリキュラムは習熟度別に共通のシラバスが設定されており、評価の基準等も明記された上で学生に公表されている。

②学生の自主的学習等を支援する環境の整備

語学センターでは、発足当初から学生の自主学習環境の推進を目的の一つとして活動を行ってきたが、平成25年4月に既述の自主学習施設：言語開発センター（LDC）を開設したことにより、環境が格段に整備された。LDCでは、自主学習のための設備・教材を多数揃えた上で、非常勤職員1名またはSAが常駐しており、利用者の相談に適切な助言をしている。また、新カリキュラムでは、English Central等のオンライン学習プログラムによる授業外学習を学生に課した上で、教員がモニターする仕組みを設けており、学生の自主的学習の促進につなげている。

グローバル・ハブ及びLDCの施設を運営するにあたり、語学センターでは、優秀な学生をスチューデント・アシスタント（SA）として雇用している。SAが、両施設の受付・管理業務を行うと同時に、学生目線の各種国際交流イベントを企画・運営

することにより、学生の自主的活動の場を提供している。SAは、日本人学生と留学生の両方を含み、学生同士の国際交流の一助ともなっている。

加えて、語学センターでは、学生の語学学習への動機づけ及びグローバルな視野の育成を目的として、講演会等を開催している。平成24年4月には、入学式後に、文部科学省「外国語能力の向上に関する検討会」委員経験のある元プロテニスプレーヤーの杉山愛氏を招いてトークショーを開催した。平成25年12月には、グローバル人材育成推進事業の一環として、Practical English for Professional Engineering Seminars (PEPES) を開催し、ジェネラル・モーターズ (GM) 上海新エネルギー政策顧問 CHIU 氏、三菱マテリアル株式会社部長補佐小原氏、日華化学株式会社執行役員林氏を招き、グローバル企業現場における英語の重要性等についての講演を行った。ほか、月1、2回の頻度で、グローバル・ハブにて、学内外から講師を招き、英語によるプレゼンテーションを行う「ブラウンバッグセミナー」を実施する等、学生の語学学習を促すための動機づけとなる各種取組を実践している。

【資料 杉山愛氏トークショーチラシ 資料編P.85】

【資料 PEPESチラシ 資料編P.87】

【分析結果とその根拠理由】

①履修指導

新カリキュラムで英語を学習した平成25年度工学部1年生を対象に、前期末に実施した授業アンケートにおいて、学生の総合満足度の質問（「普通である」を3点と設定した「総合的に判断してこの授業はよかったですか」）において、5点満点中、平均で4.6点と高い評価を得ていることから、適切な履修指導が行われていることがうかがえる。また、別項で既述のとおり、教育地域科学部における新カリキュラム実施に向けても着実に準備が進んでいる。

②学生の自主的学習等を支援する環境の整備

LDCは、平成25年4月の設置以降、授業におけるE-learningを利用した学習の指導もあり、ピーク時には満席となり時間制限を設ける等、最大限に活用されている。その他、自主学習設備・教材について相談・助言に対応する人員も配置しており、自主学習等を支援する環境は十分に整備されている。また、SAの雇用により、学生の自主活動の場も提供しており、SA企画のイベントは最大で約150名の来場者を数える等、大きな成果を挙げている。SAとして活動している学生からは、「イベントなど新しい企画のリーダーをすることで、運営力を身に付けることができた。」「社会に出る前に『働くことへの心構え』を学ぶことができた。」「留学生や様々な経験をしている学生、スタッフと知り合って世界が広がった。」等、学生自身が自立し、成長

していることを実感する旨の声が多く聞かれていることから、学生の自主活動の場として大きな役割を果たしていることがうかがえる。講演会等について、杉山氏講演会では、80%以上の学生が「英語学習への意欲が増した」と感じた。また、PEPESにおいては、「英語学習に対するモチベーションが上がった」「海外にもっと目を向けて視野を広げたい」「進路を考える上でとても参考になった」等前向きな意見が多数寄せられたことから、これらの取組が学生の自主的学習等支援に大きく貢献していると言える。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

①履修指導

工学部1年生における新カリキュラムが滞りなくスムーズに実施されている。また、平成26年度から予定されている教育地域科学部での実施に向けても着実に準備が進んでいる。

②学生の自主的学習等を支援する環境の整備

LDCおよびE-learningが最大限に活用されている。また、学生の自主活動の場の提供や、自主学習の動機づけとなる講演会等の実施も活発に行われている。

【改善を要する点】

E-learningプログラムは授業で使うだけでなく、英語力を伸ばすために努力をしている高学年生、大学院生にも使用可能となるよう、配慮が望まれる。

(3) 基準7の自己評価の概要

十分達成されている。

基準8 施設・設備 Facilities and Equipment

(1) 基準ごとの分析

8-1 設置目的に対応した施設・設備が整備され、有効に活用されていること。

The Center should be equipped with facilities and equipment so that it can achieve its purpose and they are utilized effectively.

【基準に係る状況】

語学センターには、主に2つの施設がある。平成24年10月に、留学生と日本人学生が会話、レクリエーション、アカデミックな目的のために集い合うことのできる「グローバル・ハブ」が設置された。工学研究科建築建設工学専攻の教員及び学生の協力の下で設計され、他の施設にはあまり見られない、暖かみのある雰囲気での交流を促進するデザインとなっている。プロジェクター、スクリーン、CNN等海外の番組を視聴することができるテレビ、ソファ、地球儀、留学情報誌等、国際交流を促進するための設備が整っている。

また、平成25年4月には、言語開発センター(LDC)が、学生が自立的に語学を学習するスペースとして開設された。2,500冊以上の多読用教材(Graded Readers)やTOEIC等各種語学検定試験用教材等を備えたリーディング・ラウンジ、1,000本以上のDVDを視聴できるDVDステーション、各部屋に1台ずつパソコンを備えたE-Learning用の個人語学演習室(24室)、6人までのグループ学習が可能な多目的演習室(4室)が備わっている。

【分析結果とその根拠理由】

グローバル・ハブは、普段の交流スペースとして自由に学生に開放している以外にも、学内では珍しい暖かみのある雰囲気と、プロジェクター等の各種設備を活用し、SAらによる国際交流イベントや、国際課等による留学プログラム説明会等にも活発に利用されており、開設以来、国際交流スペースとして最大限に活用されている。主なイベント等は前述のとおりである。

LDCについては、新カリキュラムを適用している平成25年度工学部1年生に対して、授業外学習の一環としてオンライン学習システムを用いた学習を課した上で、教員が学習の進捗をモニターするシステムを用いることで、LDCを最大限活用するための取組を行っている。実際、ピーク時には満席で時間制限を設ける等、学生が意欲的に学習していることがわかり、非常に有効に機能している。また、同年8月に行われたオープンキャンパスでも多数の高校生および保護者が見学に来て、国際系の大学進学を志望する県外の受験生と保護者から「福井大学にこのような充実した施設があると知らなかった。志望校の一つとして考えたい。」という声が聞かれる等、高い評判を得ている。

また、山口大、福島大、杏林大等他大学に加え、アイシン精機、セーレン等企業からも多数視察に訪れ、グローバル・ハブおよびLDCの両施設は高く評価されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

上述のとおり、語学センターの2つの施設は、その特徴に応じて最大限に活用されており、学外からの視察も多数訪れる等、注目を得ている。

(3) 基準8の自己評価の概要

十分達成されている。

基準9 財務 Finance

(1) 基準ごとの分析

9-1 設置目的を達成するために、活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有していること。

There is adequate and stable financial bases for continuing all activities to achieve the purpose.

【基準に係る状況】

語学センターは、既定経費および学長裁量経費により運営している。また、センターの業務を行っている教員の一部の人件費は、文部科学省補助金「グローバル人材育成推進事業」から措置されている。

【分析結果とその根拠理由】

平成23年度は、特定事項経費として2,000千円に加えて、優秀なセンター長の採用のために国内外に広く公募情報を発信する等のための予算を学長裁量経費から3,000千円を得ており、円滑な設立及び初動を可能とする財政基盤を確保している。平成24年度には、引き続き特定事項経費として1,974千円のほか、学長裁量経費50,000千円を確保し、安定財源としている。学長裁量経費は語学教育に深い理解を持つセンター長の下で採用された語学教育の専門家からなるインストラクター陣及び必要な庶務等を行う事務補佐員確保のための人件費、実践的な英語教育のための課程内外の各種プログラム実施経費、本学学生の英語学習への意欲向上やグローバルに視野を広げることが支援するための各種イベント経費に充てている。このほか施設整備のために補正予算（施設整備費補助金）98,983千円を獲得している。なお、この予算については仕様変更等の事情から平成25年度に繰り越すこととしている。そして平成25年度には引き続き、特定事項経費として1,948千円、学長裁量経費82,559千円を確保している。さらに外部資金として「グローバル人材育成推進事業」費からインストラクター6名分の人件費を措置、「COC事業」費から地域との連携を深めるための予算1,740千円を確保するなど学部資金による財政の健全化・多様化を進展させている。

9-2 設置目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されていること。

An appropriate financial plan is formulated and implemented as a basis for activities to achieve the purpose.

【基準に係る状況】

語学センターでは、運営委員会で年度毎の予算計画について諮り、その計画に基づき予算を執行している。

【分析結果とその根拠理由】

語学センターでは、センターの目的を達成するために必要な事項について予め予算計画を立て、運営委員会で承認を得ることとしている。また語学センターの予算の大部分を占める学長裁量経費は年度末に報告が義務づけられており、報告書の作成を行うことで、計画立った執行とともに執行の振り返りも行い、次期に繋げている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

語学センターの運営に必要な予算を確保し、適正に執行している。

【改善を要する点】

グローバル人材育成推進事業終了後の体制継続について、今後検討を行う必要がある。

(3) 基準9の自己評価の概要

十分達成されている。

基準 10 管理運営 Management

(1) 基準ごとの分析

10-1 設置目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。

A management system and an administrative system are established and they are well functioning.

【基準に係る状況】

語学センターの管理運営は、センター長、副センター長、学長が指定する者、及びその他学長が必要と認めた者で組織する語学センター運営委員会が担っており、その事務支援は、教務課を主として、国際課、松岡キャンパス学務室において支援している。また、語学センター教員は、定期的に教員ミーティングを実施し、情報の共有および教員の能力開発に努めている。

【分析結果とその根拠理由】

語学センターの管理運営は、運営委員会が中心となり十分に機能している。また、運営委員会委員には、学長が指定する者として、各学部からの教員各1名及び文京・松岡キャンパスにおける共通教育「英語」の責任者が参加しており、各学部・キャンパスにおける協力を得ながら、語学教育充実のための管理運営を強化している。

10-2 管理運営に関する方針が明確に定められ、それらに基づく規定が整備され、各構成員の責務と権限が明確に示されていること。

【基準に係る状況】

語学センター規程第4条及び第5条において明示されている。

「福井大学語学センター規程 抜粋」

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) インストラクター
- (4) その他必要な職員

2 センター長、副センター長及びインストラクターの選考に関する必要な事項は、別に定める。

第5条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 インストラクターは、センター長・副センター長の指導の下、第3条に定める業務を行う。

4 その他の職員は、センターの業務に従事する。

【分析結果とその根拠理由】

上記第4条、第5条にそれぞれ、職務及び運営委員会の設置が明記されている。また、センター長のもと、センターの目的を共有した各構成員が責任を持って活動を行っている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

管理運営体制及び事務組織支援体制が機能しており円滑に実施されている。

(3) 基準10の自己評価の概要

十分達成されている。